

御岳県立公園御嶽山ビジターセンター（仮称）整備基本計画（案）に対する意見募集の結果について

○ 意見募集期間 令和2年2月18日（火）から令和2年3月18日（水）まで

○ 意見数 7件

No	ご意見の内容	県の考え方
1	<p>「眺望」の機能を加える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設の魅力を向上と、障がい者等の来館を考慮して、テラスや施設の屋上等を利用した御嶽山の展望が楽しめる機能を考慮。 なお、基本構想から、屋上には太陽光パネル等の設置が想定されるため、現実的には屋外のテラスが想定されるが、休憩スペースに大型の窓を設置することで眺望機能が備わることから、規模については特に言及しない。 	<ul style="list-style-type: none"> 御嶽山の展望が楽しめるよう、設計に取り組む中で具体的な規模、構造等を検討してまいります。
2	<p>登山初心者の方にお伝えしたいこと</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、 登山する山が火山であるか否かを確認する。 2、 登山計画を立てて、家族に登山計画を知らせてかける事。 3、 入山届は必ず出す。 4、 自然を甘く見て日帰りの弾丸ツアーは絶対にしてはいけない。 5、 パーティーとは全員が一つになって行動すべきであり、リーダーは山に精通する人が必要である。そして経験の浅い人、体力の無い人を指導（指示）すべきである。 6、 もしもの時は、まず自分の身を守る事を重視すること。また、人任せにせず身を守る術を学んで行くべきである。 7、 飲みに行くような軽い気持ちで登山しない。そして簡単に人を誘わない。 	<ul style="list-style-type: none"> 2014年の噴火災害を踏まえ、二度と犠牲者を出すまいとの強い決意のもと、地元町村と連携し、登山者等に対する適切な情報の発信や火山防災知識の啓発に努めてまいります。
3	<p>ビジターセンターに盛り込まれるべきものは大方あげられていると思う。しかし、構想の中で、ビジターセンターが観光情報発信地となっているが、まずはセンター自体が観光の目玉となることが重要である。そして観光の目玉となる地域の人々も行きたくするようにすべきだと思う。</p> <p>2014年の大災害を第一とするのは当たり前だが、集客のためにどうするのかの視点に欠けている。</p> <p>A 2014の大災害とは 火山とは B 御嶽山の魅力、成り立ち情報提供など C 子供たちの学習、地域マイスター、伝承 D 観光客を引きつける出店、イベント、教室など</p> <p>AとDが柱であり、集客の両輪であるビジターセンターが望ましいと考える。</p> <p>※災害当時、御嶽山を活火山と知らない登山者が多かったので、防災意識を身に付け、安全安心な登山を行えるように云々と、登山者の意識をことさら言っていて、行政（県、町村）がした事しなかった事の振り返りがまるでない。</p> <p>例をあげると</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町は地震があったことを一部の山小屋にしか伝えず、登山者に何も情報を与えなかった、情報発信の失敗等。 ・県は地震計が壊れているのを知りながら、一年数ヶ月も更新していなかった。また、送られてくるデータをチェックすることすらしていなかったという防災意識の低さ等。 <p>ビジターセンター設置において、公平な視点を持つ第三者と遺族の参加が不可欠だと考える。そうしないと、災害の本質が伝承されず、教訓にも防災にもならない。</p> <p>山エリアについて</p> <p>山エリアの設置案（整備はおかしい）は、御嶽山の大災害は、様々な災害の一つで特別ではないものとしている。</p> <p>あり方検討会も同様であったが、とにかくこの大災害を歴史の中で少しでも矮小化しようとしているとしか感じられない。</p> <p>このビジターセンターは、火山のリアルタイムの情報発信と、地元の復興と活性化のための施設と理解する。</p> <p>よく県が使う災害の記録と記憶の伝承というただあったことを伝えるだけのセンターとなるのだろう。それだけならまだよいのだが、その薄っぺらな記録を子どもたちに伝えることを懸念する。</p> <p>案には盛りだくさんの情報があげられているが、多くの人たちが興味を持つとは思われないし、それを見に行く人がどのくらいいるのかも疑問だ。</p> <p>ただ登山者は、きちんと火山の情報を受け取り、山を楽しんだ後はゆっくり足湯につかるとかお風呂に入り、休憩したい。</p> <p>それからちょっと展示でも見て帰ろうかとなるのではないだろうか。</p> <p>ただ、田の原周辺を散策しても楽しむような人が多ければ、ビジターセンターにも寄ってもらえるかもしれないが、このあたりの実情は知らないの、何とも言えないが。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジターセンターの設置は、2014年の噴火災害を契機としており、噴火災害や火山防災に関する情報等を伝えることが重要な役割と考えます。 ・遊歩道などの周辺整備も行うとともに、自然体験プログラムやツアーなどの企画も検討、多くの方々に訪れていただける魅力ある施設の実現を目指します。 ・設計を進めるに当たっては、ワークショップ等を開催しご意見を伺う機会を設けてまいります。 ・2014年の噴火災害を踏まえ、二度と犠牲者を出すまいとの強い決意のもと、引き続き、地元町村等と連携し、火山防災対策に取り組んでまいります。
4	<p>里エリアについて</p> <p>コンセプトについては色々羅列されていますが、何故63名もの被災者が発生してしまたかについて明確な検証をし、それが教訓として噴火災害の記録として後世に伝承されるべきことですが、現在行政の皆さまが教訓という言葉をよくお使いになりますが何が教訓なのかよく理解できません。</p> <p>長野県はじめ木曾町、王滝村等行政の関係の皆様は噴火後に九州はじめ日本各地の災害の記念館やビジターセンター等を視察されていることをお聞きしていますが、今回の資料を参照すれば箱根や洞爺湖など類似施設として挙げられています。桜島ビジターセンターや山古志村の災害記念館等規模的にも合致していいと思います。</p> <p>資料では道の駅三岳が有力のように伺えますが登山者をターゲットにするには御嶽ロープウェイの乗り場と、田の原の登山口にサテライトとして登山者へのリアルタイム情報発信基地としての役割を持たせ、里エリアとしては500m²より広く充実させるべきです。</p> <p>設置場所については、一般の観光を目的として訪れる顧客や行政視察に来る皆さまをターゲットとし、より駅に近い場所が良いと思います。今回木曾町役場本庁舎および防災センターが来春新築完成することを報道で知りましたが、この中に木曾の物産館を兼ねてビジターセンターなりミュージアムを設置したらいかがでしょうか。そしてこれを観光コースとして盛り込むことが地場産業の育成等に寄与することだと思います。</p> <p>長岡アーカイブセンターきおくみらいや山古志村の災害記念館等は市役所庁舎内や役場庁舎に隣接する物産館の二階を使用し、栄村では森宮野原駅構内とおぼしきところにあり、IT等利用した展示がされていてよかったと思います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・里エリアの施設は木曾町が整備します。 ・長野県が整備する山エリアの施設においても、地元町村等とも連携し、火山情報等の適切な発信に努めてまいります。 ・類似施設等に関するご意見は、設計の参考にしてまいります。
5	<p>あの時、御嶽山が噴火する山とは大勢の登山者が知らなかった、そして知らされなかったために、大きな災害になってしまい残念です。五年経った現在は、登山者のための案内板、噴火災害を防ぐ地震計他、各種観測装置、気象庁火山担当者からの通信装置、万一の噴火の際のシェルター、また様々な機器を備えることで地元は安心してしまいう傾向にあります。</p> <p>危機意識の継続が大事です。そのためにビジターセンターは大きな役割があると思います。この大災害を、訪れる人々に知ってもらい、大事な情報を伝えることが中心であってほしいと考えます。</p> <p>安心して登れる御嶽山を宣伝し、大勢の観光客が訪れ、地元喜びと思恵で益々発展してほしいと思います。そのためにも噴火災害が二度と起きないことを願うところです。</p> <p>噴火災害があって建てられるビジターセンターの話合いに、何故遺族が入っていないのか不思議でなりません。今からでもよろしくお願ひいたく思います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジターセンターの設置は、2014年の噴火災害を契機としており、噴火災害や火山防災に関する情報等を伝えることが重要な役割と考えます。 ・二度と犠牲者を出すまいとの強い決意のもと、地元町村と連携し、登山者等に対する適切な情報の発信や火山防災知識の啓発に努めてまいります。 ・地域の振興に資するよう、多くの方々に訪れていただける魅力ある施設の実現を目指します。 ・設計を進めるに当たっては、ワークショップ等を開催しご意見を伺う機会を設けてまいります。

御岳県立公園御嶽山ビジターセンター（仮称）整備基本計画（案）に対する意見募集の結果について

○ 意見募集期間 令和2年2月18日（火）から令和2年3月18日（水）まで

○ 意見数 7件

No	ご意見の内容	県の考え方
6	<p>「木曾町御嶽山ビジターセンター（仮称）整備基本計画概要（案）」について この基本計画概要（案）の1整備に向けて、1-1 ビジターセンター検討の経緯、1-2 ビジターセンター設置の目的について、噴火災害の記録や教訓をもとにして、整備等が行われることが記されていますが、噴火災害をもとにして、整備等がなされることはもったもなことで賛同いたします。しかし、2施設の基本コンセプト以降について、疑義があります。それ以降の構成の内容に、この噴火災害の出発点がないように思います。構成の順番のスタートにこの災害の記録検証がないからです。普通、構成の順番は上から又は①から常識的に始まると思いますが、そうなっていません。つまり、2番目、3番目、4番目になっていて、噴火災害の意味がうすめられるからです。ビジターセンターの趣旨や目的に反します。基本コンセプトの○の順番が2番目です。まず、噴火災害を最初にし、次に火山の理解、御嶽山の順位です。構成図も一番上が噴火災害です。3-1 共通の役割についても、①過去の災害の記録と記憶、②火山のリアルタイム情報、③御嶽山が育む文化、歴史に直すべきです。3-2 木曾町御嶽山ビジターセンターの役割についても、①御嶽山火山マイスターの活動、火山研究、②地域交流、③観光施設の順位です。4-3 展示の整備方針についても、○災害の記録、○火山のしくみがまず最初にくるべきです。4番目、3番目では圧縮されてアピールできません。以上、述べましたように構成で、噴火災害の記録等がうすめられています。災害の記録を前面に出して、火山活動に対する登山等の安全性を明らかにしてください。</p> <p>長野県御嶽山ビジターセンター（案）について 木曾町ビジターセンターについても、意見を記したように、構成について疑義があります。基本コンセプトの順番も○次世代につなげる○火山を理解する○御嶽山を知るとして、災害を出発点にしてください。2(1)の役割も同様にして①が災害の記録で②火山のリアルタイム③が文化歴史です。(2)独自の役割には、噴火災害の記録検証がありません。ぜひ、加えてください。3についても、同様に災害の記録検証も加えて第1の順位としてください。</p> <p>両ビジターセンター案について 全体の抽象的な内容構成からも、構成の最初に文化、歴史が上位にきて、観光目的なジオラマパークの全体像が浮かんできて、私たち遺族としては、納得できません。この内容を具体化すれば、その内容へとさらに、観光中心となることが考えられます。そうならないためにも検討委員に「やまびこの会」（遺族の会）のメンバーを複数加入させて、内容を検討していただくことを提案します。</p>	<p>○長野県御嶽山ビジターセンター（案）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジターセンターの設置は、2014年の噴火災害を契機としており、噴火災害や火山防災に関する情報等を伝えることが重要な役割と考えます。 ・ご意見を踏まえ、「2(1)御岳県立公園御嶽山ビジターセンターの役割」の記載順を改めます。 ・「3目的・整備方針」では、2014年の噴火災害を踏まえ、二度と犠牲者を出すまいとの強い決意のもと、「いのちを守る」をはじめに記載しています。 ・設計を進めるに当たっては、ワークショップ等を開催しご意見を伺う機会を設けてまいります。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・山エリアは山小屋に隣接されているといいと思います。（登山者は3:00くらいには山小屋に行って泊まる人は次の日の朝まで時間があります。ゆっくりと見てもらえると思います） ・道の駅なら木曾福島がいいと思います 学校で課外授業で行ってほしいです。 ・入場無料をお願いします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・山エリアは登山道王滝口周辺を建設予定地としています。 ・登山に訪れた方や、遊歩道散策など自然とのふれあいに訪れた方々に立ち寄ってもらえる施設となるよう設計を進め、魅力ある施設の実現を目指します。